

寄 附 講 座 の 概 要

1 部局名

大学院医学研究院

2 寄附講座の名称

先端再生形成外科学寄附講座 (Donation Course of Advanced Regenerative Plastic Surgery)

3 寄附の時期及び期間

設置期間：令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

4 担当教員名及び職名

特任准教授：栗山元根（非常勤 1日/月）

特任助教：小坂健太郎（常勤）

5 寄附講座の教育研究領域の概要（カリキュラムを含む。）

我が国の平均寿命が過去最高を示し、男性は「81.09歳」、女性は「87.26歳」となる中で、美と健康の社会的ニーズが年々高まっている。その背景には、個の価値観やライフスタイルの多様化から生じる美容形成的な「外なる美」のみならず、乳がん術後や外科手術後の再生医療的観点やエイジングに対する機能的な美や、内科的視点からの「内なる美」まで、その需要は大きな高まりと広がりを見せている。実際に、形成外科・美容形成外科の臨床の現場では、ヒアルロン酸注入や埋没法から幹細胞脂肪注入に至るまで、多種多様な施術法や機器・技術法が広く導入されている。しかしながら、Plastic/Cosmetic Surgeryの分野では、過渡な市場競争の問題や、安価な海外美容パッケージにおける施術トラブルなど、未だ多くの課題が残されていることも事実である。従って、信頼と実績のある臨床技術・基礎研究基盤を背景に、アカデミア形成外科がリーダーシップを発揮して、本領域における安心・安全の医療供給体制の構築や、新たな先端的技術開発をリードしていく必要がある。

このような背景の中、「男女共に、美しく健やかに生きて、美しく老いることができる社会の実現」のためには、形成外科分野の手技や施術の最新技術を発展させる研究だけでなく、再生医学でのイノベーションやアンチエイジングや老化制御ホルモンに関する先端的基礎研究を推進し、それらを融合して科学的分子メカニズムに基づく新しい形成外科学・美容形成外科領域を生み出すことが希求されている。一方で、人材育成の観点からは、しっかりとした外科的知識と技術修練に裏付けられた形成外科医の育成と美容形成外科治療技術のスキルを習得はもちろんのこと、それらの指導者が先端サイエンスレベルを理解しながら臨床/教育/研究を牽引していける体制作りが望ましい。そのような環境で、先端的再生医療を深く理解できる素養を合わせ持つ次世代のScientific Plastic Cosmetic Surgeonを育成することが可能となる。このような点を踏まえて、千葉大学大学院医学研究院形成外科学講座が主体となり、イノベーション再生医学講座との連携や、分子病態解析学講座と共同研究を推進し、脂肪前駆細胞の再生医学分野への応用研究や、iPS由来の血小板や脂肪細胞のprogenitorを応用した革新的形成外科・

美容外科治療学創成に資する基盤的研究を推進している (*Plastic and Reconstructive Surgery. 2019*)。

そこで、本寄附講座では、千葉大学大学院医学研究院形成外科学講座の先進的外科臨床と教育体制および基礎的共同研究基盤を基に、学術的視点から「外なる美」と「内なる美」の融合的・革新的分野の創造と美容形成外科領域におけるアカデミア主導の外科的技術向上と新しい科学的分子基盤の創出を目的に、美容形成外科分野の技術的研究と再生医学・アンチエイジングや老化制御ホルモンに関する先端的基礎研究を推進する。一方で、上述の理由から過渡競争の医師過剰時代でも活躍することのできる次世代の人材育成のためには、多種多様な患者ニーズに対応できる技術的スキルアップを臨床の現場で経験すると同時に、日進月歩する基礎研究の知識とノウハウを習得するアカデミアでの教育体制を構築することが不可欠である。従って、本寄附講座の設置・運営に当たり、先端的手術技術を有する形成外科学講座と基礎研究の中心となる講座が一体的に共創的な臨床/教育/研究体制を構築して、その運営を支援する。形成外科・美容外科領域の関連病院やクリニックにおいてアカデミア主導で形成・美容の実臨床スキルアップを図る(図1)。このように、アカデミア講座と、形成外科/美容形成外科の実地診療病院/クリニックが従来の枠組みを超えて有機的・共創的に連携することで、先端的再生医療を理解する素養と、形成外科・美容形成外科の実地臨床におけるハイレベルの技術を合わせ持つ次世代の Scientific Plastic/Cosmetic Surgeon の教育・育成を行う。美と健康の社会的希求が大きくなる中で、時代を先取りする新たな人材育成のモデルとイノベーションを提供できる。